



第3学年1組 国語科学習指導案 福井県福井市順化小学校

昭和46年2月19日 第2校時

1 題材 タづる(物語)

2 本時の目標

悲しみをこらえて、よひょうのためにぬのをおろうと決心したつうのやさしい心と、自分の心の弱さに負けてのぞいてしまったよひょうの心とを自分なりの考えで読みとらせる。

3 児童について

第1次感想をでみると「つるがけがをして苦しそうなのは、かわいそうだ」と表面にあらわれたことを読みとっているのがほとんどで、「よひょうは、つうの気持ちも知らないで、つるのせんばおりをおれといっているのはひどすぎる」と読みとっている子は、ごくわずかである。それで、よひょうは、なぜお金をほしがるのかということを糸口として、よひょうとつうの心のくいちがいを読みとらせ、ひとりひとりの考えをひろげていきたい。

4 題材について

つるの化身であるつうがよひょうと世俗からはなれ、平和で静かな生活をおくろうとひたむきに努力するすがた、生活をささえるために、自分のはねを1枚1枚ぬいてぬのをおったきびしさを描いた物語である。

読みを重ねるごとに物語の内容を深く味わわせ、つるの恩がえしといったとらえ方でなく、つうの生き方を通して主題をつかませ、ひとりひとりの子供に、よひょうやつうの心情を考えさせるのに適切な題材である。

5 指導について

「ぬのをおれ。おらないとしょうちしないぞといったよひょうのことばから、つうの心の中を考えさせ、あれほど仲がよかったよひょうとつうが対立していった過程を読みとらせ、主題に迫らせる手だてとしたい。」

雪の中でさけぶつうを描いたさし絵や「つうがどんな決心をしたのか。なぜ、決心したのか」という教師の発問によってつうの願いを読みとらせたい。」

ひとりひとりの考えを広げるために、のぞいてはいけなとかたくとめられていたのに、のぞいてしまったよひょうの心の中をグループで話し合わせ、自分の考えとほかの人との考え方をくらべさせたい。

6 指導計画 16時間



- 第1次 第1次感想 学習計画 文字調べ ことばしらべ あらすじ調べ 6時間
 第2次 内容精査 6時間
 前時 つうとよひょうとの楽しい生活を読みとる。第8～11段落
 本時 (4/6時) つうのねがいとよひょうの気持ちを読みとる。第12～15段落
 次時 つうをさがすよひょうの気持ちを読みとる。第16～18段落
 第3次 第2次感想 つづき話 読書 まとめ テスト 4時間

7 指導過程

過程	教師の働きかけ	児童の活動	指導上の留意点
目標確認	○よひょうの気持ちとつうの願いを読みとろう。	○よひょうの心の中とつうの心の中をくらべてみる。	○カードで本時の目標をはっきりつかませる。
読む	○よひょうとつうの気持ちを表して読もう。	○つう、よひょう、地の文に分けて読む。	○分担読みにより、「」の部分の気持ちを考えさせる。
読みとる	○つうの悲しみと決心を読みとろう。 ・よひょうの頭の中は、どんなことでいばいなのか考えよう。 ・よひょうの言葉をきいたつうの心の中を想像しよう。 ・つうの悲しみとそのわけを考えよう。	○つうの悲しみを読みとる。 ・ぬのをおれといわれた時の悲しさ。 ・都へ行かないでほしいというねがい。 ・ぬのをおったら自分がだめになる悲しさ。 ・もう一度だけ布をおろうというつうの決心とそのわけを話し合う。	○「あのぬのをおってくれ」というよひょうのことばに気づかせる。 ○つうのねがいを図式化してとらえさせる。○グループで自分の考えを出し合いくらべさせ、読みを深めさせたい。 ○「とうとうつうは、 ・ ・ ・決心しました」 「つうは思ったのです」 「心を決めたんです」に目を向けさせる。 ○自分の心の弱さからついにのぞいてしまったよひょう、のぞいたことによって今まで以上の悲しい気持ちになったよひょうの心を、切り絵によって気づかせる。
○書く	○よひょうとつうへの手紙を書いてみよう。	○のぞいてしまったよひょうの気持ちを考える。 ・よひょうはずいぶんがまんした。 ・あんまりさわぐものだから、何度もいったものだから。	○書いてまとめさせる。 ○登場人物になりきって読ませたい。



<p>○読む</p> <p>○次時予告</p>	<p>○ 今朝学習したことを 読みの仲に生かそう。</p> <p>○ だい16 ~ 18 段落を 読もう。</p>	<p>中を書き発表する。</p> <p>○ 表現読みをする。</p> <p>○ つうをさがすよひょう の気持ちを読みとりたい。</p>	<p>○ 家庭学習課題をつか ませる。</p>
-------------------------	---	---	-----------------------------